

中京大学法学部談話会記事

○第四〇回談話会 法学部大会議室

一九八四年九月二六日(水)午後一時

「国際法曹協会第二〇回大会に出席して」

報告者 越川 純吉  
出席者 七名

○第四一回談話会 法学部大会議室

一九八四年十月二四日(水)午後一時

「インドの司法制度に関する一考察」

報告者 北島 泰治  
出席者 一五名

英米法研究会記事

○第一三回研究会 法学部大会議室

一九八四年九月一四日(金)午後三時三〇分

「イギリスにおける制定法の解釈について」

——デニング卿の見解を中心に——

報告者 加藤 紘捷(名古屋自由学院短期大学)  
出席者 六名

○第一四回研究会 法学部大会議室

一九八四年十月二〇日(土)午後二時

「最近の親たる権利の一側面」

報告者 本城 武雄(名城大学)  
出席者 五名

○第一五回研究会 法学部大会議室

一九八四年十一月一〇日(土)午後二時

「スコットランド法思想研究の現段階」

——Lord Stair 研究を中心にして——  
報告者 角田 猛之(中京大学)  
出席者 五名

○第一六回研究会 法学部大会議室

一九八四年十二月八日(土)午後二時

「スリーマイル島の原子炉事故」

報告者 松本 昌悦(中京大学)  
出席者 六名

○第一七回研究会 法学部大会議室

一九八五年一月二五日(金)午後一時

「非親権関係について」

報告者 本城 武雄(名城大学)  
出席者 六名

中京大学法学部講演会記事

一九八四年度講演会 法学部九二三番教室

一九八四年一月二二日(木) 午後二時四〇分

「法文化の比較

——個性的と普遍的——」

矢崎 光圀氏

高田源清教授最終講義

一九八五年一月二一日(月) 午後一時 九二三番教室

「戦後日本経済法の変遷」

中京大学大学院法学研究科

昭和五九年度修士論文題名一覽

浅野 隆士 取締役の第三者に対する責任に関する一考察

大盛 貴史 ソ連における適法性と檢察制度

寺澤 克佳 有責配偶者からの離婚請求

森 直樹 共謀共同正犯論についての一考察

柳瀬 孝優 寄与分制度の将来性

木幡 洋久 昭和五九年の割賦販売法とクーリングオフ制度

細川 勉 議決権の代理行使

# 中京大学法学部昭和五九年度卒業論文題名一覧

## 家崎ゼミナール (民法)

天谷 俊之	婚姻形態の歴史的变化と民法典
安藤 孝泰	婚姻を継続し難い重大な事由
日野 博文	精神病離婚の問題点
平野 保博	母の認知について
池田 泰樹	離婚原因について
井上 哲	ケースにみる離婚の深層
岩本 申久	日本における内縁の保護
鴨川 修	有責配偶者の離婚請求
唐 沢 実	著しい不行跡と親権の喪失
小林 淳良	婚姻を継続し難い重大な事由
小林 尚貴	財産分与と慰謝料との関係
梶野 敏行	離婚原因について
松井 孝一	有責配偶者からの離婚請求
松村 裕司	遺産分割と登記
森田 明弘	相続回復請求権

本村 昌稔	婚姻を継続し難い重大な事由
中 哲也	婚姻を継続し難い重大な事由
中内 利幸	婚姻を継続し難い重大な事由
岡田 芳典	婚姻を継続し難い重大な事由
岡本 伸一郎	離婚原因について
押山 好之	離婚原因の認定基準について
佐藤 広志	離婚と子について
谷村 祥晃	養子縁組意思の一考察
山田 浩司	重婚的内縁についての一考察
牧野内 泉	民法七五四条と権利の濫用

## 石川ゼミナール (日本法制史)

有田 賢治	伊予国における近代農民騒動
阿志賀 雅文	田川市における地方自治の発展
藤田 千春	近代農漁民の生活—魚津市の場合—
藤田 秀吉	吉野川分水史の研究

## 石堂ゼミナール（刑法）

小澄 忍	猪高村のあゆみ	福原勝幸	「わいせつ」の概念について
増尾哲也	倉吉市における町村合併について	羽生 忍	精神障害者と保安処分
増田憲英	石川県山島村の村落構造について	家村 剛	過失犯についての一考察—学校内事故と刑事責任—
三木嘉人	兵庫県の成立過程—農民一揆・自由民権運動を中心として—	石田良和	正当防衛に関する一考察
森下拓男	山代温泉の源泉問題	石川 哲	学校事故と過失責任について
中瀬一穂	徳島県における地主制の展開過程	岩橋弘子	受刑者の法的地位に関する一考察
小野寺徳謙	岩手県における地方制度の展開	岩川美幸	精神病患者と保安処分
大西弘治	満濃町の水利史	甲斐由美	放火罪についての一考察
大島まゆみ	冤罪をめぐる問題	金川康二	共謀共同正犯の概念
境田昌彦	岐阜市の市制施行	加藤純司	刑罰と保安処分
関 健一	長野県の成立と製糸業の発展	三崎 正人	交通事故と刑事責任
鈴木一弘	蒲郡市の成立	森田隆司	正当防衛における防衛意思
田所和仁	徳島県池田町の成立過程—古代・中世を中心として—	森田敏子	財産犯における占有の概念
竹隈義美	相続の歴史と問題	村田和子	死刑制度についての一考察
友利喜美	沖繩基地の実態と問題	内藤孝誠	死刑制度の存廃について
山中教義	郡山市の成立過程と農民運動の展開	中川秀夫	賄賂罪についての一考察

西村佳記 死刑制度の存廃について  
 西山佳澄 交通事故と刑事責任  
 大橋典子 死刑制度の存廃について  
 佐藤泰弘 正当防衛について一考察  
 清野敏弘 死刑―存廃論の一考察―  
 渡辺紀子 報道の自由と公正な裁判  
 安田幸 精神障害者と保安処分

### 市原ゼミナール（商法）

足立正成 手形の偽造と変造  
 藤川健 手形の偽造と表見代理について  
 橋本尚 商号専用権をめぐる諸問題  
 引田幸夫 会社の政治献金  
 広瀬基彦 手形の盗難・紛失における諸問題  
 稲元浩秀 手形の善意取得  
 門脇実 商号専用権をめぐる諸問題  
 勝部康隆 退職慰労金と商法第二六九条  
 丸尾幸敏 手形行為の表見代理について

宮崎浩規 手形の偽造と表見代理  
 中西俊量 自己株式の取得について  
 祢次金義隆 商号専用権について  
 小野寺美明 手形の善意取得  
 大森聡 株式譲渡とその制限  
 桜井幹也 手形の裏書について  
 清水正志 名板貸について  
 杉原成昭 手形の善意取得  
 田村佳久 手形偽造者の手形上の責任  
 峠原和明 手形における他人名義の署名  
 長井雅洋 手形行為について

### 伊藤ゼミナール（商法）

赤川昌之 新株発行の無効  
 土井紀史 表見代表取締役  
 原田健司 取締役の第三者に対する責任  
 畑山和志 商法二四八条一項について  
 堀内正美 会社の能力

井上正記 取締役・会社間の取引  
 岩切武久 自己株式の取得  
 加藤嘉彦 財産引受  
 清末浩平 取締役の報酬  
 前久保安生 会社の政治献金  
 西村晴彦 株式の名義書換  
 岡田正人 議決権行使の代理人資格  
 岡松真司 名板貸  
 大石幸治 商号  
 高山五一郎 手形の偽造  
 鶴原正 裏書の連続  
 伊藤敏記 株式の払込の仮装  
 三好浩之 法人格否認の法理  
 高木勝 引当金

## 大石ゼミナール（政治思想史）

阿南 晃 就業規則をめぐる諸問題  
 振角 哲也 ロッキード事件に関する一考察

古屋 修 靖国神社問題について  
 春本 勝幸 教科書問題について  
 畑中 良康 歴代内閣の特色について  
 畠中 良文 派閥―自民党の場合―  
 日比野 幸子 明治期に於ける女性  
 弘田 りさ 天皇制について  
 石原 俊美 現代の社会教育  
 岩井 淳 外国人登録法指紋押なつ制度  
 衣笠 英明 少年・少女の非行と自殺  
 三原 清人 青少年の犯罪・非行問題  
 南 健博 スーパーと市場  
 名村 雅也 交通事故と交通取締り  
 西川 幸三郎 マスコミについて  
 沼田 修幸 現代の少年非行  
 尾田 政人 低年令化する少年非行について  
 太田 圭一 四日市喘息について  
 瀧山 靖治 性格の形成と精神病について

## 岸上ゼミナール（民法）

- 五坪正智 自然債務に関する一考察  
東山憲生 背信的悪意者排除論  
稲垣崇 二重譲渡の法的構成について  
乾省二 日照権の法的構成  
石垣実京 履行補助者の過失と債務者の責任  
溝田浩之 所有権移転の時期  
椋尾浩 中間省略登記  
中島登喜雄 物権法定主義について  
中谷淳志 マンションの駐車場専用使用権  
新居卓治 不動産物権変動と登記のあり方  
岡田日出輝 担保機能としての相殺予約  
曾我部憲彦 取得時効と登記  
杉山陽彦 債権者取消権における法的構成  
田丸昌幸 物権変動の時期  
田中一民 贈収賄と民事責任  
田代敏 第三者による債権侵害  
寺瀬秀昭 法律行為の取消と登記

- 上枝昌弘 日照権における損害賠償  
山中達也 民法一七七条の第三者の範囲  
山下徹 意思表示における動機の錯誤  
柴田雅博 占有の承継と短期取得時効

## 小林ゼミナール（民法）

- 安藤宏樹 河川管理の責任範囲  
藤森敬夫 過失相殺に関する判例と学説  
藤永充弘 河川水害と大東水害最高裁判決  
東岡成人 日本の保険制度と損害賠償法  
上山孝史 七二四条における監督者の責任  
丸山善嗣 民法七一五条と自賠法三条  
松崎善介 損害賠償と保険  
三井謙作 薬害における責任について  
水野成人 土地工作物責任  
大石秀雄 四日市公害判決と共同不法行為  
坂口雅信 学校事故と賠償責任について  
佐々木隆浩 幼児水死隣人訴訟事件について

佐藤光広	大阪国際空港訴訟判決について
鹿野達矢	公害における過失と違法性
竹内隆彦	差止訴訟と公共性
曾利一之	私小説によるプライバシー権侵害
寺本正康	割賦販売約款の法律問題
梅田靖	土地工作物の瑕疵による賠償責任
梅本佳秀	共同不法行為と連帯責任

### 榊原ゼミナール (民事訴訟法)

阿部敏博	飛騨川バス転落事故について
東克則	訴訟救助について
福田典和	運行供用者責任
東端良文	二重起訴禁止の解釈
池上浩太郎	家事事件における保全処分執行
井ノ口正人	隣人訴訟について
石原誠	戦後日本の社会福祉法の課題
板垣敏昭	クラスアクションの展望
吉川完壮	四日市ゼンソクと共同不法行為

木田和重	名誉・プライバシー侵害について
小金沢浩	大阪国際空港公害訴訟
国分章	既判力の時間的限界について
久保清仁	遺留分制度と遺言自由の展望
森浩志	婚姻を継続し難い重大な事由
小川貴寅	離婚原因にみられる破綻主義
田中純	離婚による財産分与と慰謝料請求
山本忠則	債権者代位権の要件
横田昌久	国際裁判管轄権とその判例
大平雄児	民事訴訟における当事者

### 佐保ゼミナール (比較法)

中川勝彦	ソビエトの生活
瀬尾章彦	ソビエトの家族法—結婚と離婚—
日吉博士	ソビエトの市民とエリートの生活
加藤芳彰	日本とソ連のスポーツ教育
荒井禎成	ソ連政治・社会の構造と法体系
坂内宏彰	ソ連と北方領土問題



大黒善之	ソビエト社会主義共和国連邦
藤沢一浩	ソ連における表現の自由
藤田慎也	日にとつてのソ連
加藤裕司	ソ連の経済と歴史
木村卓	ソ連の社会と政治
栗原孝行	ソビエト連邦の「共産党」
森本幸彦	ソビエトの外交史
中嶋聡	ソ連の司法制度
沖田幸生	アメリカとソ連の軍事力
下鍵義美	ソビエトの教育
谷村徹	ソ連の本質とイデオロギー
戸田道明	社会保障制度—日本とソ連—
内山正敏	「北方領土」と日ソ関係
漆間義明	ソ連の教育制度とその実態
山田一之	ソ連の農業政策
山田真史	ソ連の労働の権利と保障

## 杉江ゼミナール（国際政治）

江藤和徳	米ソ謀報活動について—大韓航空機事件を 通して—
井上久義	地球の最後は近いか
伊澤裕彦	原爆はなぜ投下されたのか
和泉義昭	東西問題（米・ソの冷戦）
川路信也	現代の核兵器と核戦争
北浜久清	核戦争とラロック証言
北野圭治	日米安保条約と日本の防衛
木崎康博	原爆はなぜ投下されたのか
久保守才	原子爆弾の製造と原子力管理
的場弘明	憲法第九条と自衛隊
岡田匡範	極東地域戦場への危機
太田黒浩司	日本の防衛—その現状と理想的運用—
作田了	米ソにおける核戦略と軍備管理
相馬英一	在日米軍基地
鈴木嘉章	核廃絶
吉田真介	米ソ軍拡競争から軍縮への転換

## 角田ゼミナール (法哲学)

- 荒木宏尊 東京裁判における諸問題  
東 克朗 「猥褻」概念の一考察  
平沢 聡 安楽死をめぐる諸判例の検討  
池北賢示 新しい哲学の必要性  
伊藤正知 少年非行の動向と法的諸問題  
北村博一 国民と国家  
河本 洋 人間の生命の尊厳  
久保田孝之 尊属殺における違憲性と合憲性  
栗田健史 松山事件の犯罪捜査  
中村聡己 合法と非合法  
中山一仁 可罰的違法性論について  
高田泰三 正当防衛に関する一考察  
椿 幸諭 米騒動をめぐる法と慣習  
梅木伸二 団体と個人  
宇野剛由 日本人の精神  
渡辺靖明 尊属殺重罰制度に関する一考察  
篠中善治 過失に関する一考察

- 山中健史 安楽死にみる法と道徳  
吉田晴彦 動物社会に関する考察

## 中本ゼミナール (刑事法)

- 阿部勝利 受託収賄罪  
古田俊彦 免田冤罪事件  
平見俊彦 保安処分  
乾 悌 証拠能力  
伊藤浩和 正当防衛  
加藤正人 名誉に対する罪  
川井俊宏 再審  
近藤政春 正当防衛と緊急避難  
近藤利英 死刑制度  
西川讓二 故意・過失  
篠田和久 名誉毀損罪  
富永昭仁 正当防衛  
谷地中敬幸 詐欺罪  
山本ひとみ 猥せつ罪と表現の自由

山本一彦 共謀共同正犯  
 山本一雄 公務執行妨害罪  
 山本茂人 安楽死  
 築田雄一 責任能力  
 米澤修一 業務上過失致死傷罪

### 橋詰ゼミナール (労働法)

藤井太加男 残業  
 藤井靖之 ME化の到来と労使関係の変貌  
 林宏明 ILOと官公労働者の争議権  
 平原昭彦 リボン闘争  
 広瀬清隆 差別待遇  
 堀芳彰 配転と出向  
 家永圭介 使用者の安全配慮義務  
 井口晃 公務員のスト権  
 片桐美智子 使用者の言論と不当労働行為  
 河原良昭 複数組合併存と労働法の諸問題  
 川村一郎 派遣労働の問題点

川崎宏子 北川村教組事件と勤評反対闘争  
 小林秀当 使用者の懲戒権とその効力  
 宮城克典 労働災害の補償と予防  
 延時慶一 個別的普通解雇の諸問題  
 下地宏明 年次有給休暇の時季変更権  
 末永薫 女子労働と男女雇用平等  
 高木陽子 労災認定の業務上・外認定基準  
 田中裕子 母性保護と男女平等  
 内田真澄 遵法闘争の法理  
 受川雅明 労働法体系の確立と労働災害  
 渡辺裕恵 社宅に於ける会社批判のピラ配布  
 吉田幸生 ME革命と婦人労働者

### 檜山ゼミナール (政治史)

青山勝 勝海舟と明治維新  
 藤岡正充 ソ連の世界戦略  
 原芳之 現代のエネルギー問題  
 堀内一民 軍政家としての米内光政

鎌倉正樹	サラ金の実態とサラ金規制法
牧野弘	現代同和問題の現状とその課題
三和猛也	満州武装移民について
中村進一	サラ金利用者の自己責任について
中村義洋	「戦争論」についての一考察
中植仁	山の神信仰―岐阜・静岡・三重地方―
小野寺智彦	現代学校病理「いじめ」
高橋美通	民族問題について
高間清嗣	日本人の生活とパチンコ
竹本和展	沖縄戦にみる沖縄県民と日本
武岡真樹雄	高齢化社会と老人問題
内山直人	日本の防衛
鷲俊和	レバノン問題
浅沼英仁	広告と社会―TV放送広告から―
石川英夫	徴兵令制定
新藤健	日米安保条約の今日的役割と課題

## 増原ゼミナール（民法）

知久正利	婚姻の成立及び無効・取消
浜内信行	人工受精の諸問題とその合法性
井下雅行	離婚―財産分与と慰謝料の関係
井上康志	医師の過失責任―ペニシリン・ショック事件を中心に―
石橋良明	内縁関係の破綻と不法行為
門脇延治	虚偽の出生届と養子縁組の成否
河原勲	法的意思の探究―契約法に則して―
中井嘉夫	身分変動に関する一考察―ある複雑な家族関係の解明―
二宮保	共同相続財産の性質―共有・合有論に対する一考察―
奥山秀司	親権の濫用
大藤靖之	わが国の相続法について
佐藤三智雄	推定をうけない嫡出子
曾根英憲	親権と現代の教育問題
高橋正好	今日における離婚の当面する課題

高根沢 広則 正当防衛と緊急避難―特に民法上の違法性

阻却事由に関連して―

高柳 英信 離婚―夫婦問題の解決へ向けて―

高柳 容子 日照権裁判例について

竹内 雅哉 現代の離婚問題について

棚橋 幸二 子の引渡について

津垣 嘉孝 婚姻を継続し難い重大な事由

植木 敏生 相続人の廃除について

山本 哲也 婚姻及び婚約をめぐる諸問題

## 松本ゼミナール（憲法）

宮後 正 昭和女子大事件と基本的人権

前田 泰宏 防衛問題をめぐる護憲・改憲論

中野 和文 平和憲法と戦争の放棄について

石飛 豊 憲法第九条における戦争の放棄

川西 恵 環境権について

木伏 和徳 冤罪事件関係者の証言と成立要件

蒲生 裕一 現代における表現手段と憲法問題

中尾 隆文 憲法における「教育権」について

山本 善治 私人相互間における権利保障問題

中田 正寿 自衛権に関する一考察

武田 淑宏 我国の防衛論における一考察

河下 太志 憲法十三条とプライバシー権

田中 功 わが国の自衛隊保持の是非

濱 竹美 憲法における人権体系の再検討

草野 弘嗣 法の下の平等と原理について

平松 義英 選挙運動の制限及び取締り

山田 俊也 少年犯罪と公害における人間疎外

岡村 孝志 自衛隊存在の是非に関する一考察

中沢 裕章 わが国における自衛隊の実態

下吉 光彦 外国人の基本的人権

## 丸山ゼミナール（政治学原論）

天野 雅雄 現代における広告について考える

榎本 大志 現代政治における政党の役割

藤澤 義実 ヒトラーとファシズム

井上吉博	軍拡競争から軍縮へ
小島健嗣	「我が闘争」にみる反ユダヤ主義
亀山秀雄	昭和憲法の矛盾と条約との関係
松本悟	ブラジル日系移民の勝ち組
中島洋	憲法第九条
下里晃四郎	憲法第九条
田中克俊	「黙示録」とヒトラー
戸塚幸宏	真の「平等」の原理と人間の心理
坪井稔	核兵器廃絶への道
上田治良	生命の人為的短縮に関わる問題
浦崎雅義	二・二六事件の青年将校の思想と行動
和木孝史	日本のファシズム
山田隆幸	外食産業界
休石徹	日米経済摩擦
依田博俊	消費者金融の変貌
米田寿史	外食産業
前地忠和	「サラ金地獄」より // SOS //

## 樅木ゼミナール (国際法)

天内俊英	北方領土問題
藤江優	海洋開発と国際法
金丸雅志	国際法と人権
木村稔一	国家責任
真鍋重信	国際紛争の平和的解決
森塚憲一	国際結婚の成立
中村徹	国際法の歴史について
奥村章	国連における経済開発問題
砂川隆	社会福祉における国際性と日本
高瀬勝久	自衛権の先例研究
滝口哲也	大津事件
玉木勝	国際法と国内法
田中一成	大津事件における司法権独立
谷口清晴	国際紛争の平和的解決
土谷洋一	国際法における宇宙法
渡部幹生	国際連合とアパルトヘイト
山口秀勝	アパルトヘイトの起源と関係法律

山本進吾 日ソ領土問題を考える  
村上浩一 満州事変

## 山岸ゼミナール（行政法）

阿部哲也 交通事故と罰則―最近の判例の動向―  
藤井映夫 行政の行為類型論  
石本宏 国家と行政  
岩本茂樹 訓令・通達  
木村直樹 行政指導  
久米聡 行政手続―告知と聴聞を中心として―  
前田卓司 石油カルテル最高裁判決  
丸山浩史 行政行為論  
宮下宗親 トルコ風呂開業阻止事件  
永田和博 特別権力関係  
西辻寿彦 行政行為における裁量  
西沢隆 行政強制  
斉藤英明 大学の自治に関する判例の研究  
坂昭宏 行政調査

新開喜久 納税義務と強制徴収  
瀬川貴之 公表制度  
瀬尾正智 公法と私法の区別  
浦岡一栄 議員定数配分規定違憲判決―ふたつの最高裁判決―  
藪下昌享 原告適格に関する研究  
矢下田倫夫 公害訴訟と環境行政  
山本直之 社会保障